

日本共産党
足立区議団ニュース

2007年3月8日

NO. 6

日本共産党足立区議団
中央本町1-17-1区役所内
e-mail:acmp@blue.ocn.ne.jp
区議団ホームページ
http://www.adachi-jcp.jp/

介護保険改悪で介護ベット、食事代の負担を補助し、高齢者福祉の充実を

3月8日、予算特別委員会 第5日目は、三好すみお、鈴木秀三郎議員が質問に立ちました。その要旨をお知らせします。

三好すみお議員の質問の要旨は次のとおりです。



質問する三好すみお議員

○質問―福祉用具は適切に使えば自立を促す有効な手段となるが、06年4月から介護ベットは貸与が受けられず従来から利用していた人たちは高い費用でレンタルするか、購入するか、あきらめるかの選択が迫られた。介護保険の改悪で軽度の人を利用できなくなり「介護ベット」の10万円程度の買取補助も打ち切られるが、見直しの方向とはどういうものか。

○質問―医師が判断し適切なプランであれば従来どおり貸与が認められる方向で検討されている。

区長は「議会議決は尊重する」と言いながら実施は先送り

○質問―施設利用の食事代補助について、区長は「議会の議決は最大限尊重する」としたが、一年経ってもまだ「推移を見る」のか、いつからやるのか。



○質問―国会は食事代の費用を保険からはずしたが、それを補助するには一般計で行うのが筋だ。一般財源を投入して実現できないのか。議会の議決を尊重すると言うなら区長が自らの責任でGOサインをだすべきだかどうか。

○質問―国は食事代の費用を保険からはずしたが、それを補助するには一般計で行うのが筋だ。一般財源を投入して実現できないのか。議会の議決を尊重すると言うなら区長が自らの責任でGOサインをだすべきだかどうか。

○質問―私が党は予算修正案で示したが、1千万円弱までできるもの。高齢者福祉施策として一般会計で対応するのは当然のことだ。

○質問―区長はどうか。

○質問―我が党は予算修正案で示したが、1千万円弱までできるもの。高齢者福祉施策として一般会計で対応するのは当然のことだ。

子どもの医療費無料化実現で歴史を語れる日本共産党

○質問―子ども医療費無料化拡大で我が党は1972年9月議会で区民の請願を受けて要求してきた、34年前のこと。89年には組み換え案をだしたが、自民、公明などが「必要性認めない」と否決した。92年、

93年にも質問し「3歳未満児までの無料化が実現」した。吉田万三区長の時、就学前まで一気に拡大した。4年間では毎回議会で取り上げてきた。「中学3年生まで入院医療費助成の条例案」を提出したが、自民、公明、民主の与党は否決した。我が党はその後も粘り強く要求し、今年4月から中学3年生までの入院医療費が無料になった。長い歴史を語れるのは日本共産党だけである。

通院費も含む無料化が他区ですすみ 実施が遅れる足立区

○質問―足立区以外のすべての区で通院費も無料化になる、23区の中で取り残されているのは足立区だけだ。ただちに実施すべきだ。

○質問―次に、障害者計画の地域基盤整備では障害福祉サービス提供体制の確保、医療などの分野のネットワークを構築するとしている。医療行為の伴うものは介護事業者にはリスクが大きくて扱えない。難病患者の支援など訪問看護ステーションと事業者と連携して、24時間対応できる「モデル事業」を検討する考えはないか。

○質問―次に、補助258号線の関係で六町の区画整理事業について何う。区画整理審議会に区の職員が参加して綾瀬川架橋の設置について説明を行ったと聞くが、その時に地域の方からどんな意見、要望があったのか。

補助258号線の整備は住民の要望をよくつかめ

○質問―橋を作れば補助258号の進捗が早まることになる。140号の時もそうだったが、拡幅を早めると言うことで急遽、住民が移転することになり、トラブルがあった。区画整理の計画も示されたばかりだが、258号線にかかわっては、最後に整備されるE地域となっている。架橋ができて早められると、また変更となり、トラブルにつながるのではないかと危惧されている。

○質問―我が党は予算修正案で示したが、1千万円弱までできるもの。高齢者福祉施策として一般会計で対応するのは当然のことだ。



○質問―我が党は予算修正案で示したが、1千万円弱までできるもの。高齢者福祉施策として一般会計で対応するのは当然のことだ。



区は人間の尊厳を守る立場から 孤独死をなくす積極的な取り組みを

鈴木秀三郎議員の質疑要旨は次のとおりです。



質問する鈴木秀三郎議員

○質問―孤独死対策について問う。足立区の一人暮らしの高齢者数は75歳以上が1万4千人を超え、85歳以上では1万人以上に上る。都営住宅の孤独死はひとり世帯で40人。足立区では52人と最も多いとの報道を示し、わが党は区的全庁的な対策を求めた。区は「地域包括支援センターを中心に取組む」と言ったが、具体的にはどうするのか。

●答弁―申請を待たずに地域まわりをし、保健士または看護士、主任ケアマネー、社会福祉士の3名が配置されている。軽度者ケアプランに手問取っているが、厚生労働省の人員配置の弾力化の通知がでた。地域包括支援センターと居宅介護事業所の兼務が可能に。また、多忙なセンターは人員配置（基準）の予算を計上した。

緊急通報システムは 一人暮らし高齢者の命綱

○質問―体制の強化として一歩前進だ。ところで、あんしんネットワークなどでは孤独状態の高齢者への対応は困難な面もある。わが党は予算修正案で示している緊急通報システムは効果があると思うがどうか。

●答弁―18年度から「急性の発作性」から「慢性疾患」に対象を拡大、民間の受信システムとした。これは12時間、家の中で動きがないとリズムセンサーで自動的に通知する機能がある。

○質問―効果があがるが、現在設置している世帯数はいくつか。

●答弁―20くらいである。

○質問―85歳以上で一人暮らしの高齢者の約1割は慢性疾患があると聞いているが設置数が少ない。緊急通報システムは以前は無料だったが、いまは利用料・自己負担がかなり生保世帯や非課税世帯でも毎月300円、08年度には500円になる。課税の方は900円から1800円となる。緊急通報システムは慢性疾患がある高齢者にはまさに命綱だ。わが党の予算修正案で示したが、今の設置数なら50万円程度でできるもの。利用料を無料にすべきだがどうか。

●答弁―無料にすると使わなければ損をするという、モラルハザードが生まれる恐れがある。予算的にパシクするので一定の負担をお願いしている。

○質問―「使わなければ損をする」この言い方はお年寄りを侮辱するもの。長年社会に貢献してきた高齢者の命にかかわる問題。負担を心配せずに必要とする高齢者が利用できるようにすべきだ。

○質問―もう一つは要介護高齢者、障害者などを対象に孤独死対策の面からゴミ戸別収集の抜本的な改善を提案している。いま区は「ふれあい収集」として戸別収集を行っているが、区全体でわずか25世帯。これは制度がないことによる。例えば、新宿区では、孤独死対策の一環として85歳以上の単身高齢者を対象に資源ゴミ、不燃ゴミ、可燃ゴミの収集日に定期的な訪問しゴミを出している。区も（85歳以上）一人暮らし高齢者を対象として戸別収集体制を全庁的に確立すべきだがどうか。

●答弁―介護度高い独居高齢者の世帯は親族、近隣の協力者と制度化されている家事援助などで対応している。どうしてもできない方には「ふれあい収集」でやる。

○質問―清掃事務所の作業に支障のない範囲での戸別収集ではなく制度として仕組みをつくるべきだ。

●答弁―新宿は別働隊をつくり対応しているようだが、足立区の作業計画の中で別働隊をつくるのは困難である。

小規模工事契約希望者登録制度の 活用を図り、区内業者の支援を

○質問―対応を検討すべきである要請する。

次に、区は入札参加資格申請が困難な業者の受注拡大を図るとして小規模希望者登録制度を創設した。しかし登録しても受注できない状況である。制度がスタートして2年になるが契約実績、登録業者数はどうか。

●答弁―登録業者は17年度93社、18年度48社、19年度は37社。契約実績は17年度は8件、18年度は12月末で23件である。

○質問―登録業者が年々少なくなっているが、何が原因か。

●答弁―見積もり合わせに声がかからなかった。原因については制度が出来て2年であり、庁内周知が充分でなかったことが原因ではなかったかと思う。

○質問―PRなど登録業者を増やす努力をすべきだ。また登録有効期間を2年か3年に広げるよう要望する。



牛田駅北側に改札口と 南北自由通路をつくれ

○質問―（牛田駅踏み切りとの関連で）東武線牛田駅北側に改札口設置と公有地を活用して南北自由通路の確保を建設会社、東武と区に要請してきた。区は勉強会をもち検討すると約束したが進展はどうか。

●答弁―牛田駅踏み切りは歩行者が多く安全上課題もある。19年度から東武と勉強会を組織して踏み切り対策として安全対策を検討する。

○質問―町会連合会でも2年前要望書を出している、19年度からとは遅い。早急な対応を求め質問を終わる。